

ふるさと柘野

柘野学区まちづくりビジョン

目 次

- | | |
|------------------|--------|
| 1. はじめに | — (2) |
| 2. 柘野学区のあらまし | — (4) |
| (1) 学区の特徴 | |
| (2) 学区の歴史 | |
| 3. 将来ビジョン | — (7) |
| 4. 6つの基本テーマの取り組み | — (8) |
| (1) 生活利便性 | |
| (2) 産業 | |
| (3) 安心・安全 | |
| (4) 自然 | |
| (5) 文化・教育 | |
| (6) コミュニティ | |
| 5. ビジョンの推進に向けて | — (20) |

～ 柘野学区の更なる発展を目指して ～

(1) 柘野学区の動向と課題（まちづくりビジョン策定の背景）

京都市街北部に位置する柘野地域は、歴史的には自然豊かな田園地帯としてながく推移してきたところです。昭和 55 年（1980）に柘野学区が発足してからの経過、とくに近年の動向をみますと、時代の変化の影響を受けながら、地域として大きく変貌してきたことがわかります。

すなわち、人口の大幅な増加をはじめとして、若い世代のウエイトの増大、農地の住宅化への大幅な転換、公共施設としての学校の新増設等です。

社会のさまざまな変化の中にあっても、柘野学区は自然に恵まれた地域であり、人びとの生活も一般的には安定的に推移してきました。町内会の諸行事等地域の活動は、いつも活発に運営されており、何よりも若々しさが柘野学区の大きな特徴といえましょう。

このような学区の発展の中で、いくつかの課題も生起しています。たとえば、交通・道路・まちの整備問題や地域コミュニティへの未参画問題などです。また、安全安心特に山や川の自然災害、さらには大地震に備える必要があります。こうして生活手段の利便性をはじめとした、より住みやすい、安全で快適な環境への期待がますます高まってきていることは確かなことです。

(2) まちづくりビジョン策定の経過

このような動きの中で、近来数度にわたって、町内会長や団体長からまちづくりについてアンケート等で意見を求めました。それを総合しますと、将来の柘野地域の期待される姿を想定しながら、よりよい社会を作りあげたいという計画策定の強い要請を察知するところとなりました。こうして、まちづくりの将来のすがた、あり方を求めて、「まちづくりビジョン」の策定にとりかかった次第です。

まず、平成 23 年度後半から検討をはじめ、さらに学識経験者や関係行政当局の参加をいただき「柘野まちづくりビジョン検討委員会」を立ちあげ、その討議をベースにこのたび柘野町内会連合会・柘野社会福祉協議会として“ふるさと柘野”を表題とした「柘野学区 まちづくりビジョン」を取りまとめたところです。

(3) まちづくりビジョンの位置付け

京都市および北区では、平成 23 年度（2011）を初年度とした基本計画（10 か年計画）がスタートし、それぞれ地域コミュニティの活性化が重要なテーマの一つとなっており、平成 24 年 5 月には「京都市地域コミュニティ活性化推進計画」が策定されたところです。

そのような行政当局の基本理念に沿った形で、このたび柘野学区の独自の長期計画である「まちづくりビジョン」を策定したものです。

その目標期間は、10 か年（H25～H34）とします。その実践に当たってはビジョン策定年度（H24 年度）から着手する項目も多く、各年度計画の主要項目は、まちづくりビジョンの目標と連動することになります。

こうして、ビジョンの基本テーマの中の具体的内容は、将来にわたる社会諸情勢の変動により前向きに改変されることもありうるでしょう。（ローリング・プランとよばれ、「10 か年計画」といった長期プランは、3 か年ごとに見直されることが多いのです。）

多くの学区民の皆さんのご意見をいただきながら、ビジョンの項目が一步一步実現して、「より暮らしやすい、活力あるまちづくり」に、学区民をあげて取り組んでゆけることが期待されることです。

なお、さらに付言すれば、今回は「柘野学区」を主題としつつも、将来的には、対象地域を広範囲にとらえ京都市市街地北部地域の開発プランとして、「自然と文化」「研究と学び」「福祉と子ども遊園」の開発のゾーンとして発展してゆくことが期待されることです。



(1) 学区の特徴

①立地

柘野学区は、南北に流れる京都のメイン河川である賀茂川の源流域に近く、その賀茂川を東西に挟むまちです。

歴史的には自然豊かな田園地帯としてながく推移し、農業を中心に栄えてきました。今日に至っても、近くに山や林、多くの田園を残し、自然豊かなまち、山紫水明の趣のある地域といえます。

また、大学や研究施設も多く立地しており、各種機関と連携したまちづくりに取り組んでいます。



②区画整理と人口

1970年代頃から、東部地域は農・住併行して、西部地域は、区画整理を伴う住宅地への転換の形態をとって急激に発展してきました。人口、世帯数も数十年來、大幅に増加しており、昨今、その傾向は鈍化してきたとはいえ、北区の中でも希少な人口増加地帯です。

平成22年の国勢調査では、人口12,010人4,905世帯でした。近年も住宅地化が進み、人口増加地域として今後とも同じ地域形成がされると予測されます。

③東部地域と西部地域

こうした背景とともに、当学区は東西地域それぞれ固有の特徴をもったまちを形成しています。

東部地区は、開発が一部あるものの全体として古い伝統と由緒あるまちで構成されており、旧来の田園地帯から徐々に新しい住宅が建設されてきました。それ故に道幅は狭く、公園その他の公共施設も少なく未整備な状態が続いております。

西部地区は、区画整理事業の環境下で進展してきた背景から、一部旧来からの家並みや田畑を残す景観を引き継ぎながら、新しいまちが作られています。

④地域の活動

柘野町内会連合会・柘野社会福祉協議会の本部役員とともに、町内会長と各種団体長は、地域運営の中心的役割を担っています。目的は「明るく住みよい地域づくり」であり、町内会・各種団体が連携しあい学区民の安心安全のための防災・防犯活動や、児童の登下校のパトロール、高齢者へは敬老会やふれあい活動、学区民全体のつながりのために柘野まつり・社会見学・体育祭・新年会などを開催しています。

近年町内会の加入世帯数は横ばい傾向にありますが、こうしたまちづくりの更なる展開に向けて、住民（学区民）みんなが一歩一歩実現にむけ努力してゆく必要があります。

⑤近隣学区との交流

柘野学区は京都では珍しく、賀茂川を真中にはさんだ学区で5つの橋がかかり、柘野・大宮・上賀茂それぞれの交流や交通渋滞解消にも役立っています。さらに近隣学区と連携した、広域にわたる活動が期待されています。



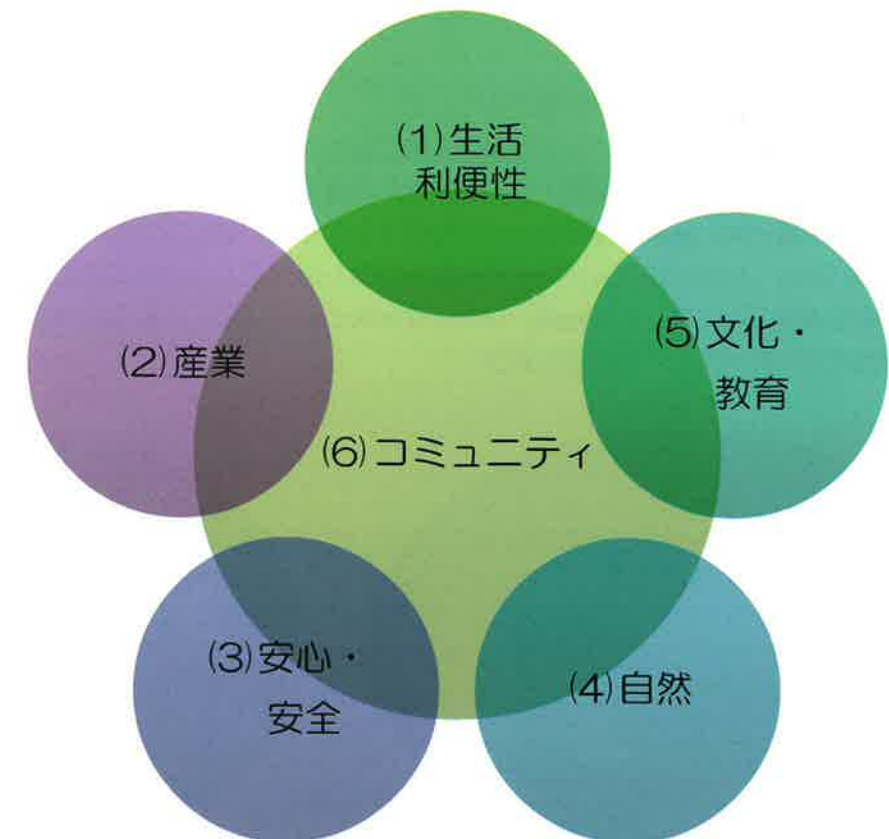
3 将来ビジョン

スローガン

希望と活力にあふれるコミュニティづくり

取り組みの6つの基本テーマ

柘野のコミュニティをベースとした6つの柱のもと、まちづくりの具体的な取り組みを推進してゆきます。



(2) 歴史

①柘野と西賀茂の町名の由来

柘野は寛永2年(1625)頃に田畑が開かれ上賀茂村の枝村として「柘原新田村」と呼ばれ、上賀茂神社の所領で神社の神事や修理料として開発されたといわれています。地元では「上ノ段、下ノ段、岐し」の地域を「柘野」として区分され、上ノ段・下ノ段は天皇の御猟場として維持され、その地域の農家は谷川の水をせき止め溜池を作りその水を利用していました。



また、西賀茂村は川上4か町と山ノ森・蟹ヶ坂・井ノ口・庄田町から形成され、多数の瓦窯跡があるところです。最も早く窯が営まれたのは「醍醐の森」(北川上)で全盛期は平安時代前半であったようです。

②柘野小学校の創設と現状

昭和40年(1965)頃から柘野・大宮地区では開発が進み、人口が急速に増加し上賀茂・大宮小学校では教室が不足してきたため、小学校の新設が検討されはじめ地元の土地所有者の協力を得て、昭和54年4月上賀茂小学校柘野分校が開校されました。

開校当時は柘野地区の児童のみが登校していましたが、その後大宮地区の北部の児童も上賀茂小学校柘野分校へ通学することになり、昭和55年4月に京都市立柘野小学校として開校いたしました。学校名は地元由来の「柘野」と名付けられました。

③柘野学区の創設

当時学区内には21町内会がありました。柘野小学校の開校と同時に柘野町内会連合会が設立され、各種団体長と町内会長で構成する柘野社会福祉協議会も設立され、現在に至っています。

